至誠

勝田第三中学校 学校だより 第10号
令和6年7月19日（金）発行
文責：校長　川上徹行

勝田三中ＨＰ

夏休みを迎えるにあたって、年度初めからの取組を振り返りました。

４月のスタートから早いもので三か月が過ぎ、71日の授業日を行いました。学習や行事、部活動などを通して生徒のみんなは、成果もあげましたし、悔しい想いもしました。日々の努力によって大きく成長していることは確かです。しかし、心を傷つけてしまうトラブルが発生してしまったこともありました。これからの成長が期待される生徒たちには、こうしたことを糧として、心豊かに育ってほしいと願っています。生徒たちの健やかな成長のために、今後も保護者並びに関係者の皆様の応援やサポートを、よろしくお願いいたします。
（以下は本校代表生徒の活躍の状況と休業前の私の話です。）

・市少年の主張大会…発表者 Ｉさん(3年) 「未来のために」　紹介者 Ｆさん(3年)
・市 Presentation Forum 2024…参加者 Ｅさん(3年) Ｓさん(3年) Ｓさん(3年) Ｏさん(3年) Ｙさん(3年)
今後の県大会等の本校生徒の活躍にご期待ください。(7/21…中央地区吹奏楽コンクール＠市文化会館、7/23～…県総体ソフト＠那珂総合運動公園、7/25…県総体卓球＠下館総合体育館)

４月のスタート時に私から、未来社会で，幸福で有意義に生きていくためのキーワードとして「創造」を伝えました。「豊かな発想で新たな価値を生み出すこと」が重視されているので「対話」による学びを通して、一人一人が根拠に基づいた考えを述べられるようになってほしい、と願いを話しました。そのために、違いを理解し，他者を価値ある存在として思いやる「尊重」、が大切で、考え方の違いや間違いなども受け入れてもらえる，「安心・安全な雰囲気」をみんなで作ってほしいとも話しました。今日は、安心・安全な雰囲気が作れたかどうかを、市教育委員会のホームページにのっている、【いじめを予防すること、命を守ること　～多様な「ひとが咲くまち」に～】を引用しながら、皆さんに問いかけます。

この世に生まれてきた私たちは、一人一人が、かけがえのない存在です。誰一人として、生まれてこないほうがよかった、などという人はいません。ですから、いじめられてよい人、傷つけられてよい人など、いてよいはずはありません。誰かをいじめたり、傷つけたりすることは、決して許されないことです。いじめは、誰かが失敗したな、ちょっと違うな、という空気になったときに現れます。他の人と同じようなことを言えなかったり、同じような動きができなかったりすると、周りがあざ笑ったりバカにしたり、いじったり、それに同調する人が広がっていったり。でも、それをおかしいと判断できることが、大切ではないでしょうか。学校は、分からないことがあるから通う場所、間違いに行く場所です。授業中、誰かが間違ってくれるおかげで、みんなの学びは深まります。間違いは、みんなの役に立つことです。分からなかったり間違ったりしても、それは恥ずかしいことではありません。分かったふりをして、そのままにすることのほうが恥ずかしいことです。一人一人が自分らしくありのままで暮らせること、それが「人権」が守られているということであり、安心・安全な環境であり、笑顔で暮らせる場所、「居場所」ではないでしょうか。教室が、学校が、誰一人取り残すことなく、みんなの「居場所」になっていることがとても大切です。人のありのままを笑ったりバカにしたりいじったりしてよいなんてことはありません。いじめには、いじめる人、いじめられる人、見ているままの人が存在します。いじめは、特にいじめられた人とその家族の心に、深い傷を重く長く残し続けます。誰かを見下すことで、自分の気持ちを満足させたり優越感にひたったりするのは、差別です。それは、他人の人権をおかしていることで、決して許されることではありません。仲間とのふれ合いをとおして、相手の気持ちを自分におきかえて考えられる人間になりましょう。いじめを見ているままの人も、関係なくはありません。いじめる人もいじめられる人も出さない、人の痛みが分かる、思いやりにあふれた学校、学年、学級になってほしい。そのためには、いじめたり見ているままだったりの空気より、助けようとする勇気が重要です。一人一人は多様でも、同じ人間として、お互いを認め尊重する空気を、みんなで育ててほしい。